平成２６年度第４回平塚市行政改革推進委員会議事録
（意見交換及び講評）

開催日時　平成２６年８月４日（月）１６：５０～１７：００
場　　所　平塚市勤労会館　中会議室（２階）
出席委員　青木委員長、後藤副委員長、芦川委員、出雲委員、露木委員、常盤委員、
　　中嶋委員、臨時委員
臨時委員　（市職員）秋山主査
出 席 者　企画政策部長、企画政策課長、財政課長、
　　企画政策課（課長、課長代理、主管、主任）

【委員長】
事業評価を実施して、直すべき点があれば忌憚のない意見を言ってほしい。

【Ａ委員】
成果指標の設定が難しい事業もあるが、いろいろ考えて出してほしい。資料は、当初から出してほしい。

【Ｃ委員】
事前に資料の要望を出せる機会があると良い。特に財団関係はもう少し踏み込みたかった。

【Ｅ委員】
資料には、行為の内容は書かれていたが、成果の部分がなかった。成果が先にあってそのためにこのような行為をしているという様な書き方をしてほしい。成果の目標も明確にしてほしい。

【Ｆ委員】
もう少し広い部屋でもっと多くの職員が傍聴していれば良いと思った。評価改善はこれで終わりではないため、多くの職員がこのような目線をもって事務に取り組むことで、レベルの高い見直しができるようになると思った。

【Ｂ委員】
評価シートの中に成果指標を入れ込むことが原則だと思う。追加をする必要のない資料作りを行ってほしい。

【副委員長】
成果指標を出してほしい。資料は事前に出してほしい。４～５年やっている事業は過程を説明してほしい。

【委員長】
成果が出てこないのは、市役所の中で、行政改革の意識がそれほど大きな重みを持っていないのかなと感じてしまう。本来は、担当部局と第３者、上層部だけで行うのが事業評価ということではなくて、自分の担当する事業をどうやって変えていけばよいのか日ごろから考えているのが行革ということになる。わざわざこのような場を設定しなくても良いという状態が、本来の行革のあり方である。そういうことが意識されているのであれば、資料を作りなさいと言われたときに成果を書けるはずである。
そもそもの所まで遡ってみると、事務の改善や自分のやっている仕事が何の役に立っているのかという意識が低いのではないかと思う。
そうすれば、この会も必要なくなる。
そのような所に力を入れてほしい。それができなければ、上層部が成果指標を無理にでも出せと言わないといけなくなる。

以　上